

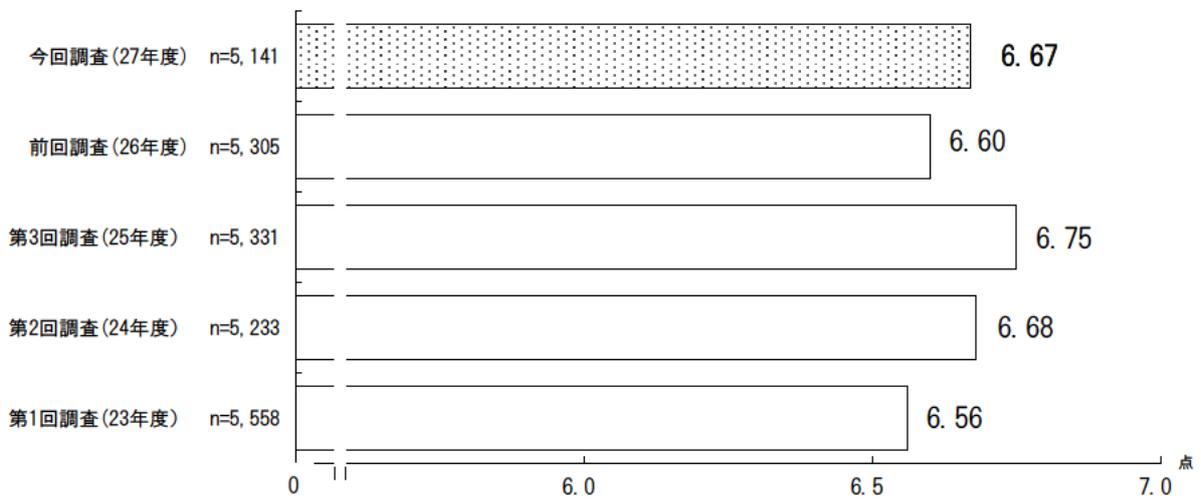
第 1 章

幸福感の現状

第1節 幸福感の県全体の状況

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、今回調査（平成27年度実施）の平均値は6.67点で、第1回調査より0.11点、前回調査より0.07点高くなっています。（図表1-1-1、図表1-1-2）。

図表 1-1-1 幸福感の平均値の推移



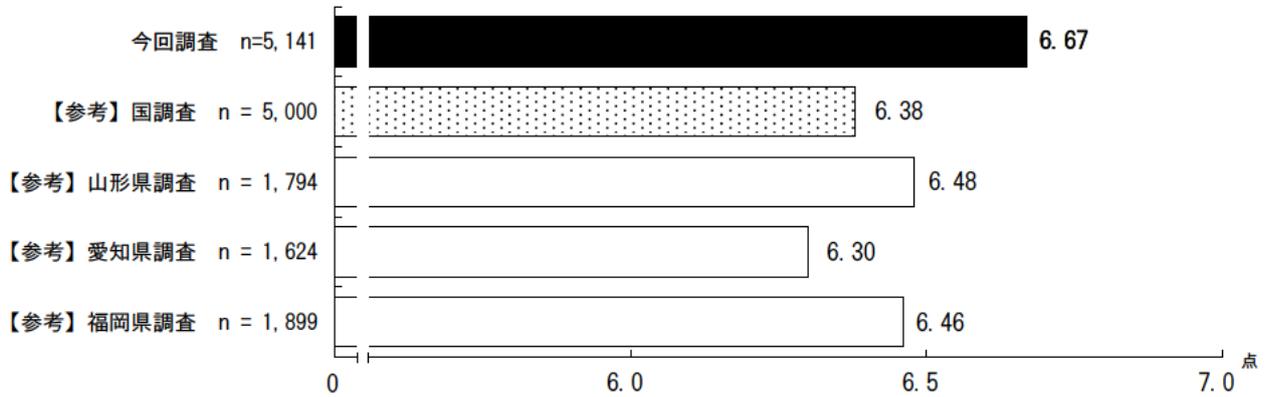
- (備考) 1. 今回調査と前回調査との差は、統計的に有意な差となっています。
 2. 今回調査と第1回調査との差は、統計的に有意な差となっています。

図表 1-1-2 みえ県民意識調査の調査概要（第1回～第5回）

	第1回調査	第2回調査	第3回調査	前回調査	今回調査
調査時期	平成24年1月～2月	平成25年1月～2月	平成26年1月～2月	平成27年1月～2月	平成27年11月～12月
標本数	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人
有効回答(率)	5,710 (57.1%)	5,432 (54.3%)	5,456 (54.6%)	5,444 (54.4%)	5,236 (52.4%)
調査対象	20歳以上	20歳以上	20歳以上	20歳以上	20歳以上
実施方法	郵送法	郵送法	郵送法	郵送法	郵送法

また、調査方法等が同一ではないことから単純な比較はできませんが、国や他県の調査結果を見ると、三重県の回答者全体の幸福感は国や他県の幸福感よりも高い水準にあるといえます（図表1-1-3、図表1-1-4）。

図表1-1-3 幸福感（国調査及び他県調査との比較）



図表1-1-4 参考とした国や他県の調査の概要

- ◎ 平成26年健康意識調査（実施主体：厚生労働省）
 - ・質問：「現在、あなたはどの程度幸せですか。」（みえ県民意識調査と同一）
 - ・実施時期：平成26年2月
 - ・有効回答数：5,000
 - ・調査方法：インターネット
 - ・幸福感：6.38
- ◎ 平成27年度県政アンケート調査（実施主体：山形県）
 - ・質問：「日々の暮らしの中で、どの程度幸せを感じていますか。」
 - ・実施時期：平成27年5月～6月
 - ・有効回答数：1,794
 - ・調査方法：郵送法
 - ・幸福感：6.48
- ◎ 平成27年度第3回県政世論調査（実施主体：愛知県）
 - ・質問：「現在、あなたはどの程度幸せですか。」（みえ県民意識調査と同一）
 - ・実施時期：平成27年11月
 - ・有効回答数：1,624
 - ・調査方法：郵送法
 - ・幸福感：6.3
- ◎ 平成27年度県民意識調査（実施主体：福岡県）
 - ・質問：「現在、あなたは実感としてどの程度幸せですか。」
 - ・実施時期：平成27年6月～7月
 - ・有効回答数：1,899
 - ・調査方法：郵送法
 - ・幸福感：6.46

第2節 幸福感の一属性クロス分析

幸福感を1つの属性（ここでは、地域、性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、世帯収入）によるクロス分析を行いました。個人の幸福感はさまざまであり、多くの要素と関係性があると考えられることから、県民の幸福感の特徴や傾向をより詳細に把握するためには、次節に記載する2以上の属性によるクロス集計の結果も合わせて見ていく必要があります。

【凡例】

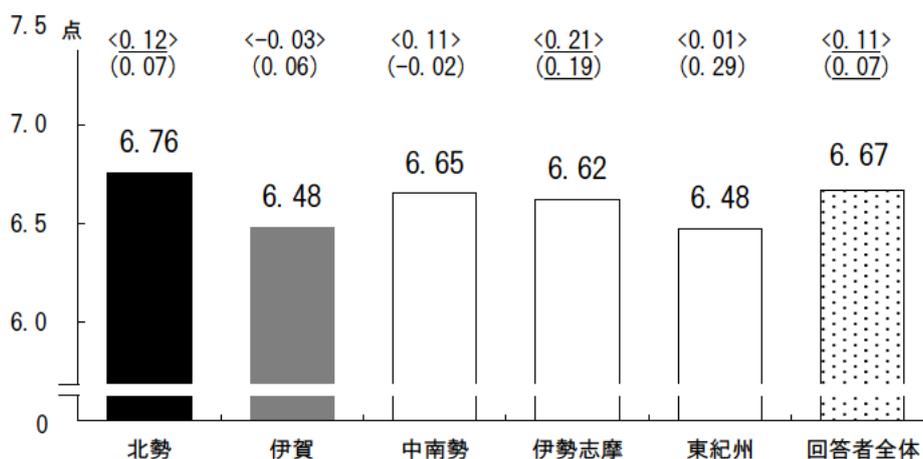
- 1 < >内の数字：第1回調査との差(点)
 ()内の数字：前回調査との差(点)
 下線の数字：統計的に有意な差がある場合
- 2 ■ 黒色：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 ■ 灰色：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 □ 白色：幸福感の平均値が回答者全体と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

1 地域別

回答者全体と比べ、北勢地域の幸福感が高く、伊賀地域の幸福感が低くなっています。

第1回調査と比べ、北勢地域、伊勢志摩地域の幸福感が高くなっています。前回調査と比べ、伊勢志摩地域の幸福感が高くなっています（図表1-2-1）。

図表1-2-1 幸福感（地域別）

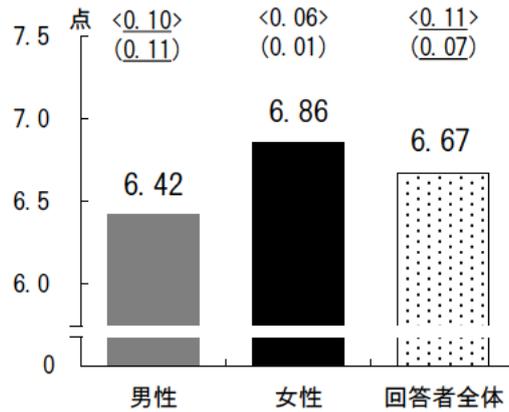


2 性別

第1回調査、前回調査と同様に、女性は男性より幸福感が高くなっています。

男性の幸福感は、第1回調査及び前回調査と比べ高くなっています。女性の幸福感は、第1回調査及び前回調査との比較では統計的に有意な差は認められません（図表1-2-2）。

図表1-2-2 幸福感（性別）

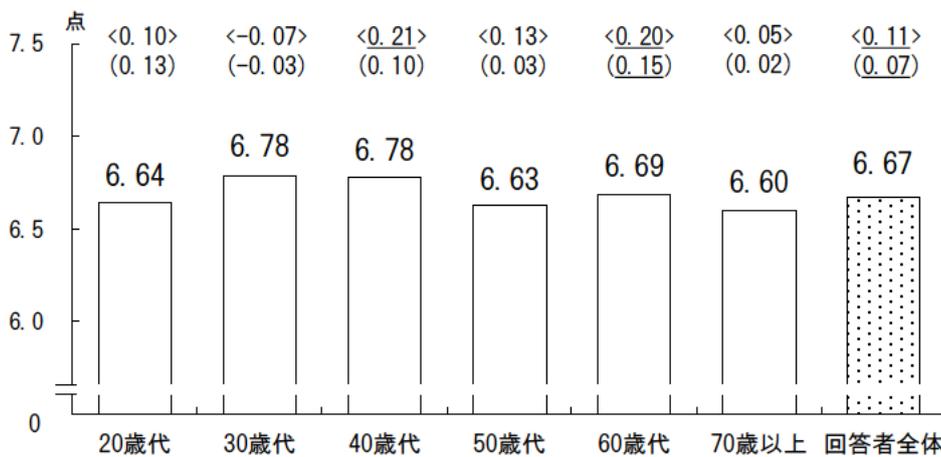


3 年齢別

回答者全体との比較では、統計的に有意な差は認められません。

前回調査と比べ、60歳代の幸福感が高くなっています。第1回調査と比べ、40歳代及び60歳代の幸福感が高くなっています（図表1-2-3）。

図表1-2-3 幸福感（年齢（10歳階級）別）

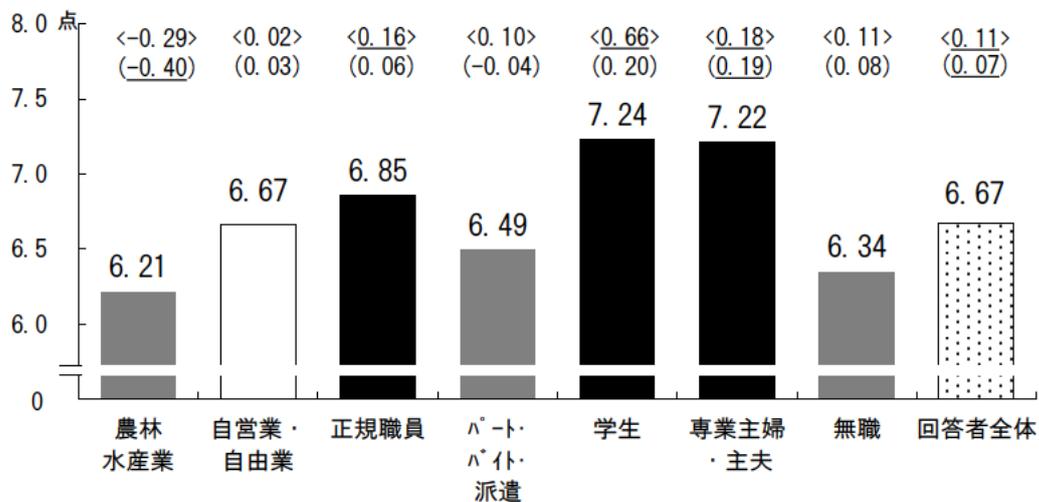


4 職業別

回答者全体より、正規職員、学生、専業主婦・主夫の幸福感が高く、農林水産業、パート・バイト・派遣、無職の幸福感が低くなっています。

前回調査と比べ、農林水産業の幸福感が低くなっていますが、専業主婦・主夫の幸福感は高くなっています。第1回調査と比べ、正規職員、学生、専業主婦・主夫の幸福感が高くなっています(図表1-2-4)。

図表1-2-4 幸福感(職業別)

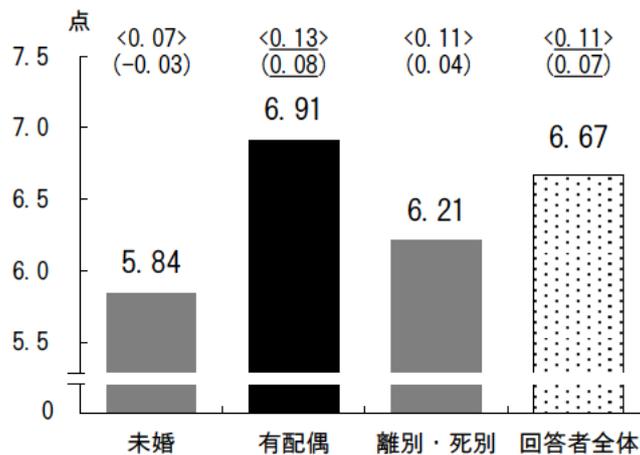


5 配偶関係別

第1回調査、前回調査と同様に、回答者全体より、有配偶は幸福感が高く、未婚、離別・死別は幸福感が低くなっています。

前回調査及び第1回調査と比べ、有配偶の幸福感が高くなっています(図表1-2-5)。

図表1-2-5 幸福感(配偶関係別)



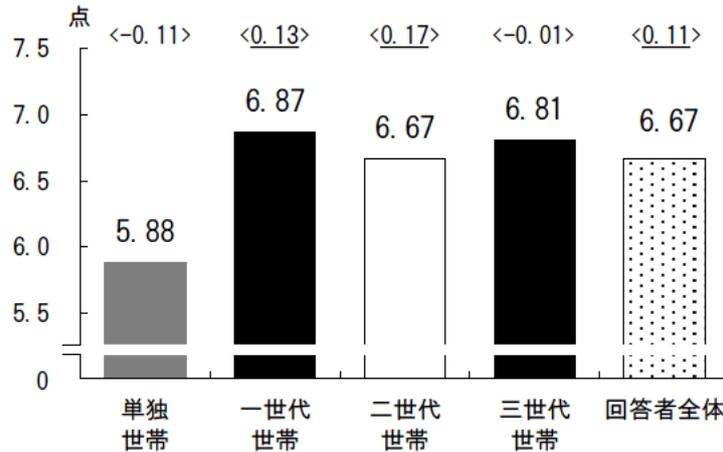
(備考)

今回調査では、離別と死別を区分して質問していますが、過去との比較のため、離別・死別を合わせて集計しています。

6 世帯類型別

回答者全体より、一世代世帯と三世代世帯の幸福感が高く、単独世帯の幸福感が低くなっています。第1回調査と比べ、一世代世帯と二世帯世帯の幸福感が高くなっています（図表1-2-6）。

図表1-2-6 幸福感（世帯類型別）



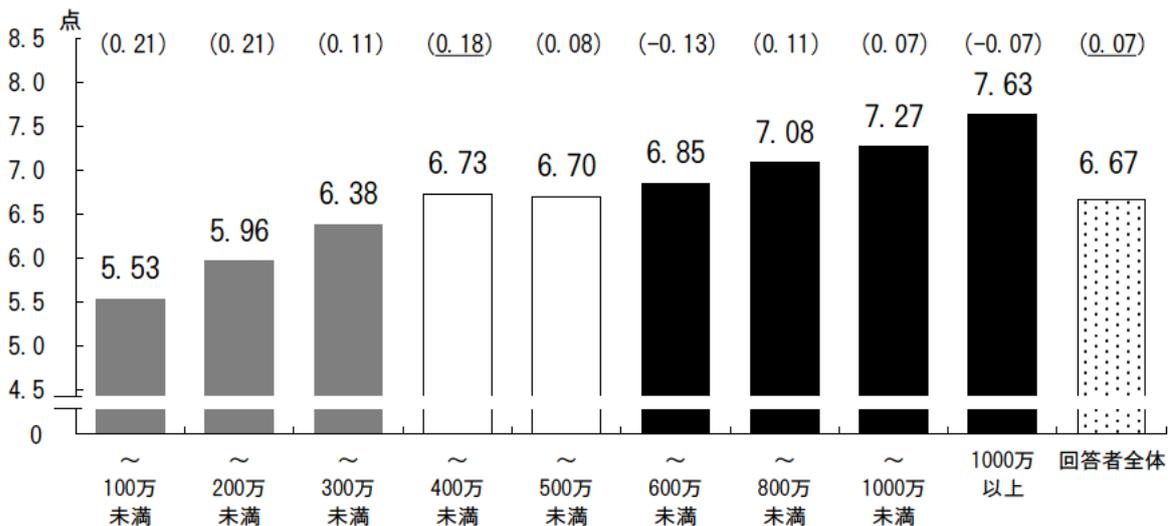
（備考）前回調査と世帯類型に関する設問が同一でないため、前回調査との比較はしていません。

7 世帯収入別

回答者全体と比べ、300万円未満の層の幸福感が低く、500万円以上の層の幸福感が高くなっています。

前回調査と比べ、300万円以上400万円未満の層の幸福感が高くなっています（図表1-2-7）。

図表1-2-7 幸福感（世帯収入別）



（備考）第1回調査では異なる区分での世帯収入を質問しているため、第1回調査との比較はしていません。

考
考

連続して幸福感が高い（低い）属性項目

第1回調査から第5回調査まで、5回連続で、回答者全体に比べ、幸福感が高いあるいは低い属性項目（統計的に有意な差がある場合）は次のとおりです。

- （幸福感が高い属性） 女性、専業主婦・主夫、有配偶、一世代世帯
（幸福感が低い属性） 男性、無職、未婚、離別・死別、単独世帯

第3節 幸福感の2以上の属性クロス分析

個人の幸福感はさまざまであり、多くの要素と関係性があると考えられます。そこで、県民の幸福感の特徴や傾向をより詳細に把握するため、2以上の属性クロスのうち、特徴的な傾向がみられた属性の組合せを掲載しています。

なお、分析にあたっては、全ての属性（性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、世帯収入、地域）を2つ組み合わせて、全21通りのクロス分析を行いました。その21通りのクロス分析については、有意性検定を含め、集計データ、前回調査及び第1回調査との推移データを別冊のデータ集に掲載しています。

【凡例】

太字の数字：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

斜字の数字：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

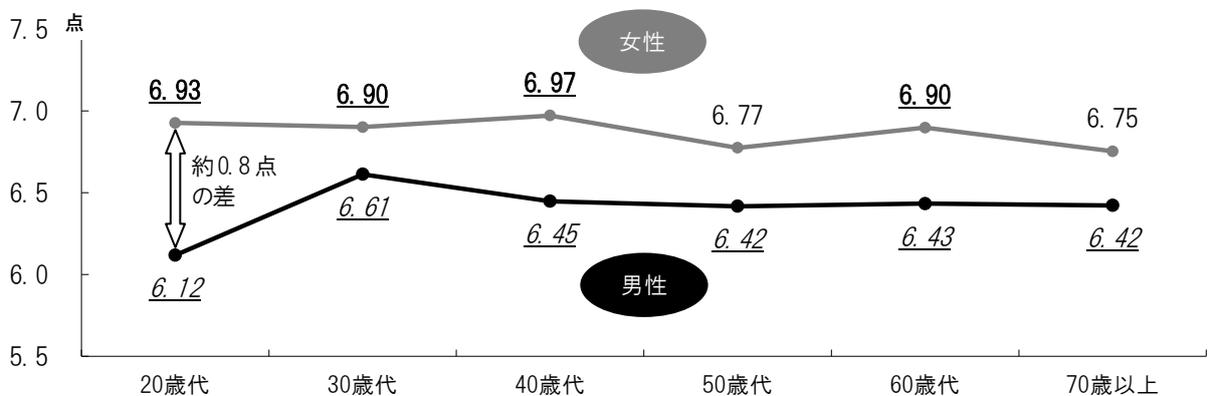
↔：2属性間で最も点差が大きい属性項目

1 年齢別・性別を中心とした2以上の属性クロス分析

(1) 年齢別×性別

年齢別×性別に幸福感を見ると、全ての年代で女性の幸福感が男性よりも高くなっています。特に、20歳代で女性と男性の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-1）。

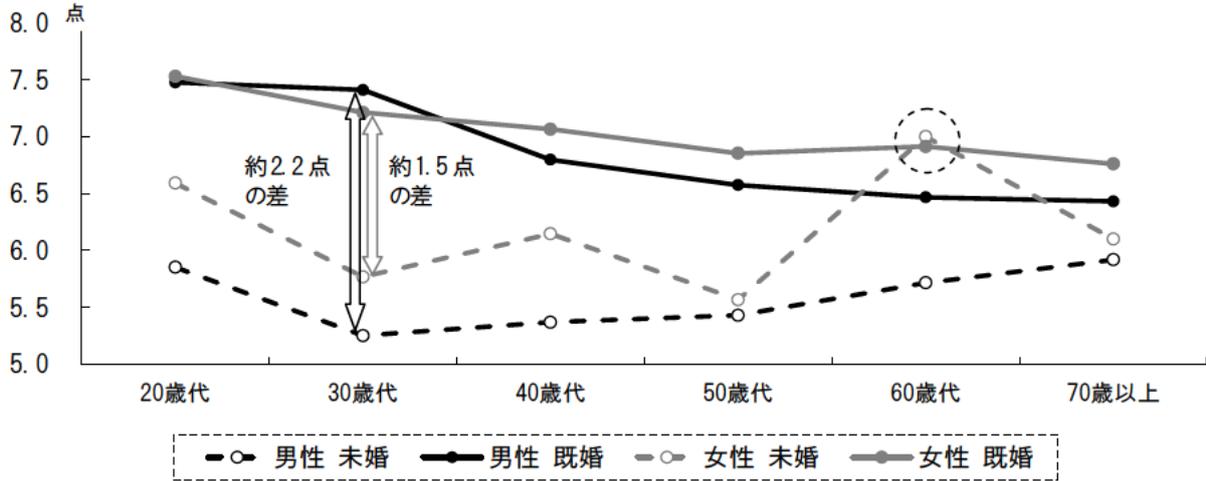
図表1-3-1 幸福感（年齢別×性別）



(2) 年齢別×性別×未婚・既婚別

年齢別×性別×未婚・既婚別に幸福感を見ると、男性は、全ての年代で既婚の幸福感が未婚よりも高くなっています。女性は、60歳代を除く全ての年代で既婚の幸福感が未婚よりも高くなっています。特に、男女ともに30歳代で未婚と既婚の幸福感の差が大きくなっています(図表1-3-2)。

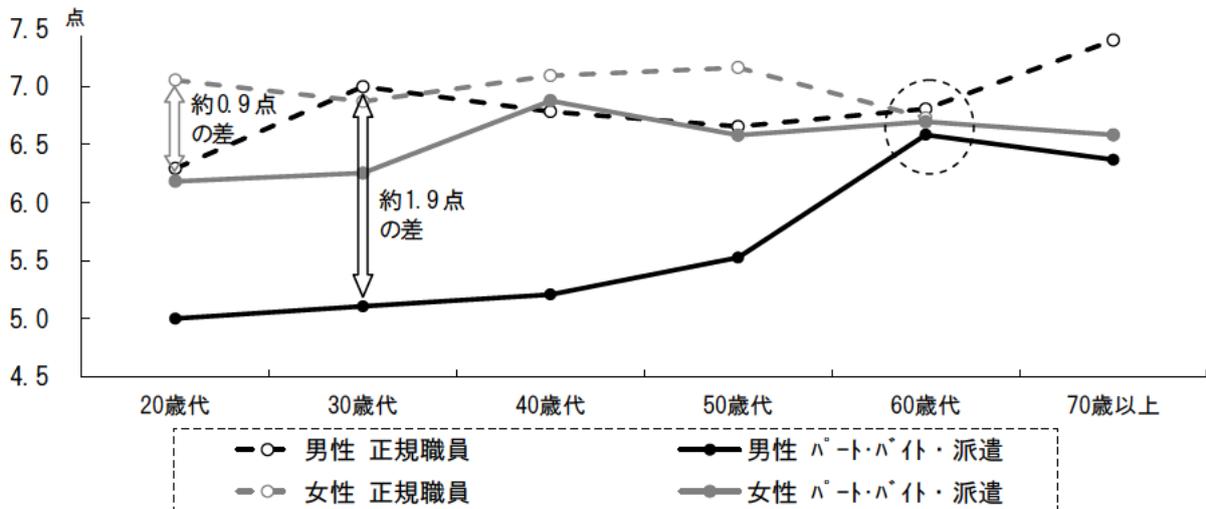
図表 1-3-2 幸福感 (年齢別×性別×未婚・既婚別)



(3) 年齢別×性別×正規職員、パート・バイト・派遣別

年齢別×性別×正規職員、パート・バイト・派遣別に幸福感を見ると、男女ともに、比較可能な全ての年代で正規職員の幸福感がパート・バイト・派遣よりも高くなっています。特に、男性は30歳代で、女性は20歳代で正規職員とパート・バイト・派遣の幸福感の差が大きくなっている一方で、男女とも60歳代は幸福感の差が小さくなっています(図表1-3-3)。

図表 1-3-3 幸福感 (年齢別×性別×正規職員、パート・バイト・派遣別)

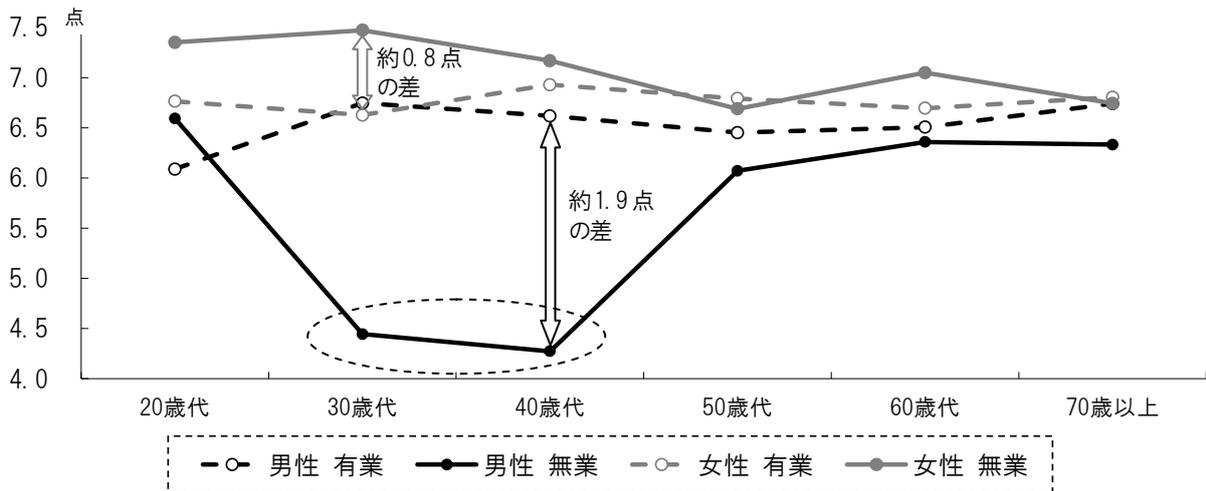


(備考) 女性の正規職員の70歳以上については、サンプル数が少ないため省略しています。

(4) 年齢別×性別×有業・無業別

年齢別×性別有業・無業別に幸福感を見ると、男性の幸福感は、おおむね無業より有業が高くなる傾向があり、女性の幸福感は、おおむね有業より無業が高くなる傾向があります。特に、男性の無職の30～40歳代の幸福感が他の属性よりも大幅に低くなっています（図表1-3-4）。

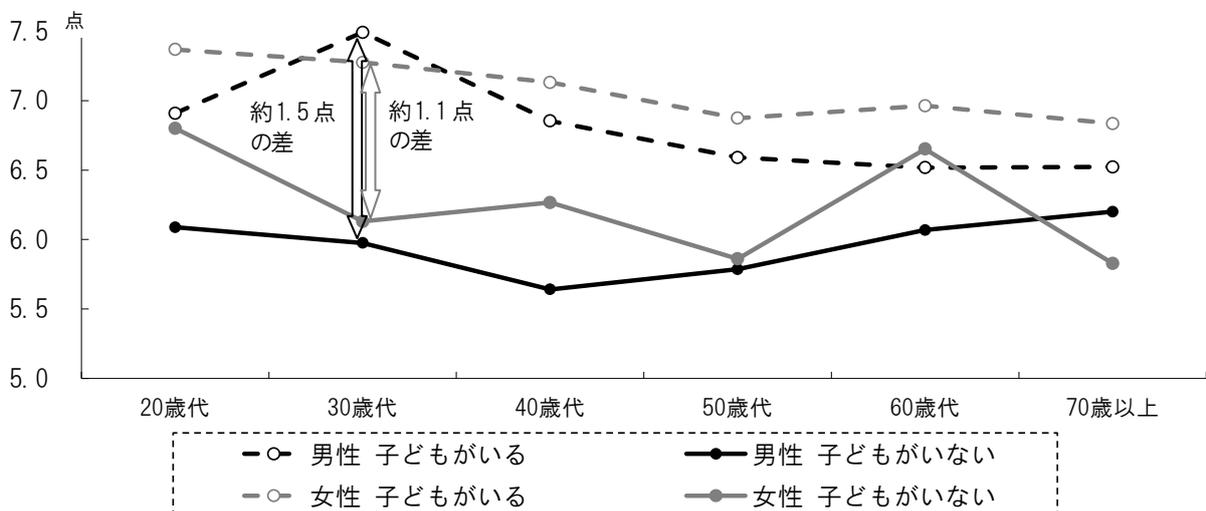
図表1-3-4 幸福感（年齢別×性別×有業・無業別）



(5) 年齢別×性別×子どもの有無別

年齢別×性別×子どもの有無別に幸福感を見ると、男女ともに、全ての年代で子どもがいる層の幸福感が子どもがいない層よりも高くなっています。特に、30歳代は子どもがいる層と子どもがいない層の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-5）。

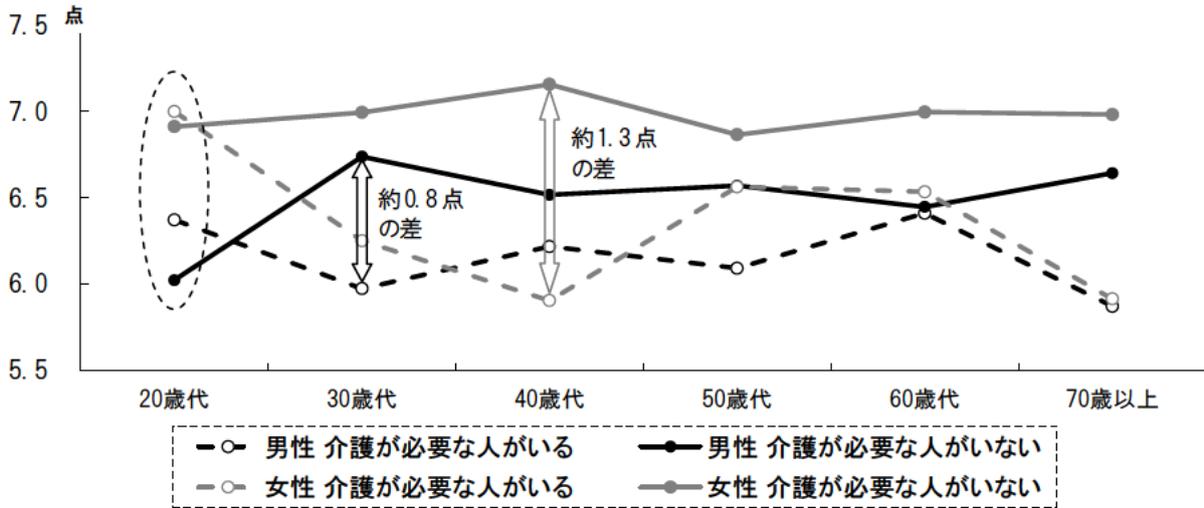
図表1-3-5 幸福感（年齢別×性別×子どもの有無別）



(6) 年齢別×性別×介護が必要な人の有無別

年齢別×性別×介護が必要な人の有無別に幸福感を見ると、20歳代を除く全ての年代で介護が必要な人がいない層の幸福感が、介護が必要な人がいる層よりも高くなっています。特に、男性では30歳代で、女性では40歳代で介護が必要な人がいない層と介護が必要な人がいる層との差が大きくなっています（図表1-3-6）。

図表1-3-6 幸福感（年齢別×性別×介護が必要な人の有無別）

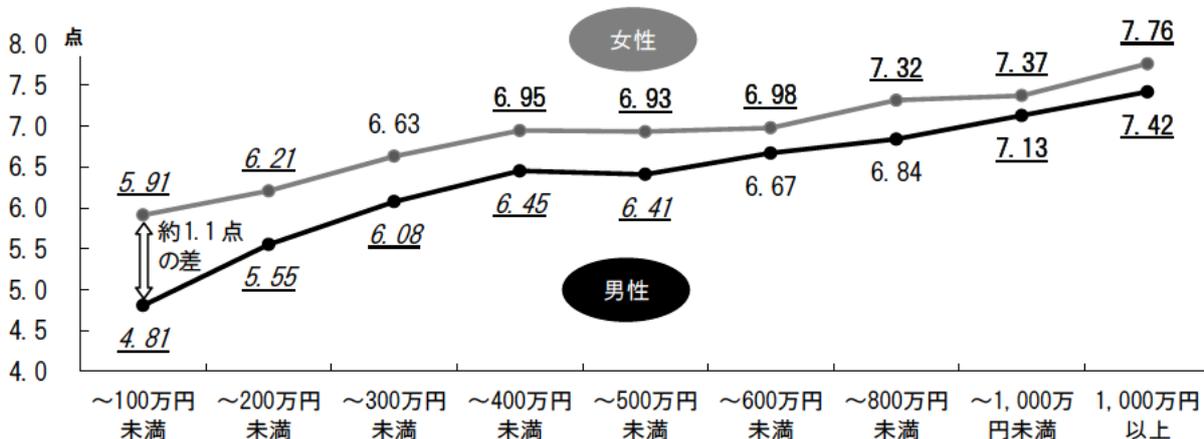


2 世帯収入別を中心とした二属性クロス分析

(1) 世帯収入別×性別

世帯収入別×性別に幸福感を見ると、男女ともに世帯収入が高くなるほど幸福感も高くなり、全ての世帯収入で女性の幸福感が男性よりも高くなっています。特に、100万円未満で女性と男性の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-7）。

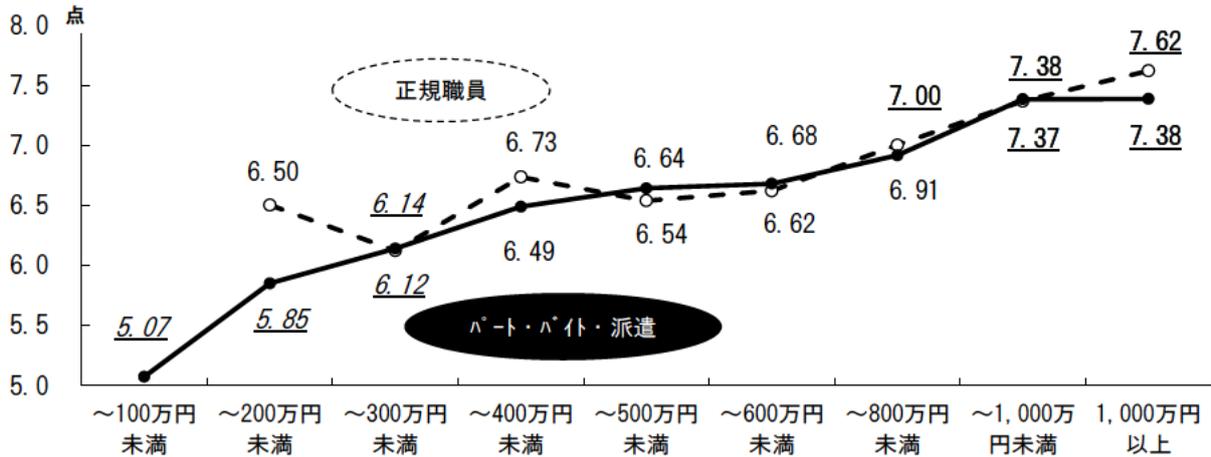
図表1-3-7 幸福感（世帯収入別×性別）



(2) 世帯収入別×正規職員、パート・バイト・派遣別

世帯収入別×正規職員、パート・バイト・派遣別に幸福感を見ると、正規職員及びパート・バイト・派遣ともに世帯収入が高くなるほど幸福感もおおむね高くなる傾向にあり、世帯収入が同程度であれば、正規職員とパート・バイト・派遣の幸福感に大きな差はありません（図表1-3-8）。

図表1-3-8 幸福感（世帯収入×正規職員、パート・バイト・派遣別）

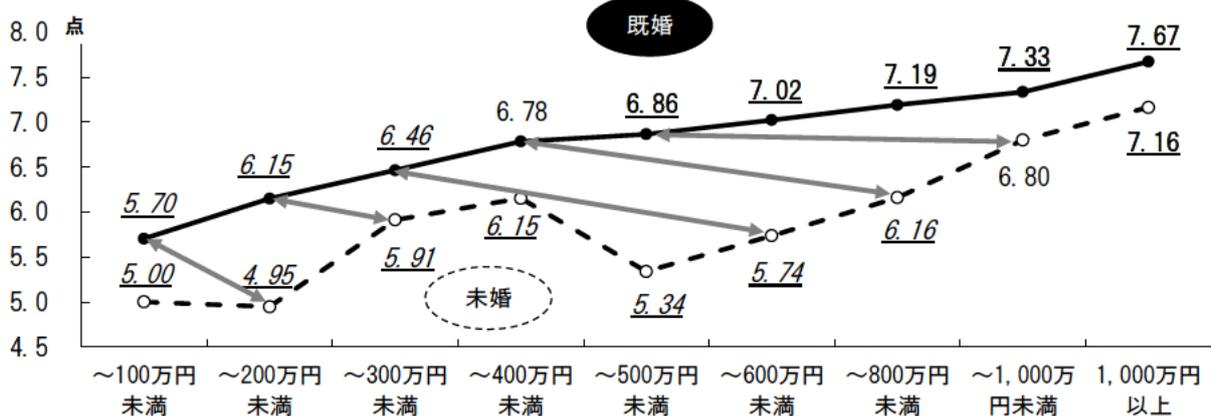


（備考）正規職員の100万円未満については、サンプル数が少ないため省略しています。

(3) 世帯収入別×未婚・既婚別

世帯収入別×未婚・既婚別に幸福感を見ると、既婚は世帯収入が高くなるほど幸福感もおおむね高くなる傾向にあり、全ての世帯収入で既婚の幸福感が未婚よりも高くなっています。既婚の世帯収入500万円未満の幸福感は、世帯収入が倍増した未婚よりもおおむね高くなっています（図表1-3-9）。

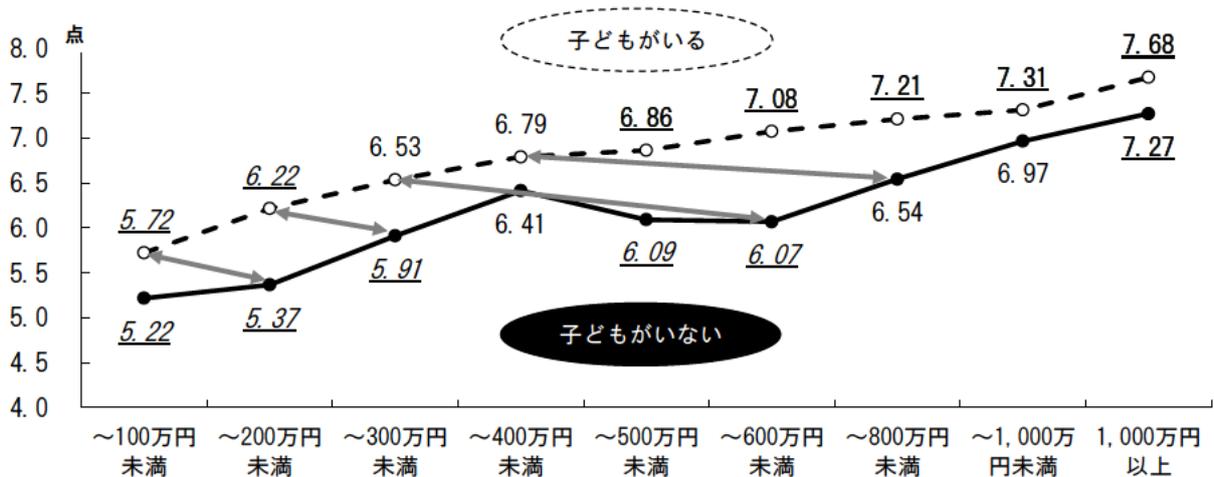
図表1-3-9 幸福感（世帯収入別×未婚・既婚別）



(4) 世帯収入別×子どもの有無別

世帯収入別×子どもの有無別に幸福感を見ると、子どもがいる層は世帯収入が高くなるほど幸福感もおおむね高くなる傾向にあり、全ての世帯収入で子どもがいる層の幸福感が子どもがいない層よりも高くなっています。子どもがいる層の世帯収入400万円未満の幸福感は、世帯収入が倍増した子どもがいない層よりもおおむね高くなっています（図表1-3-10）。

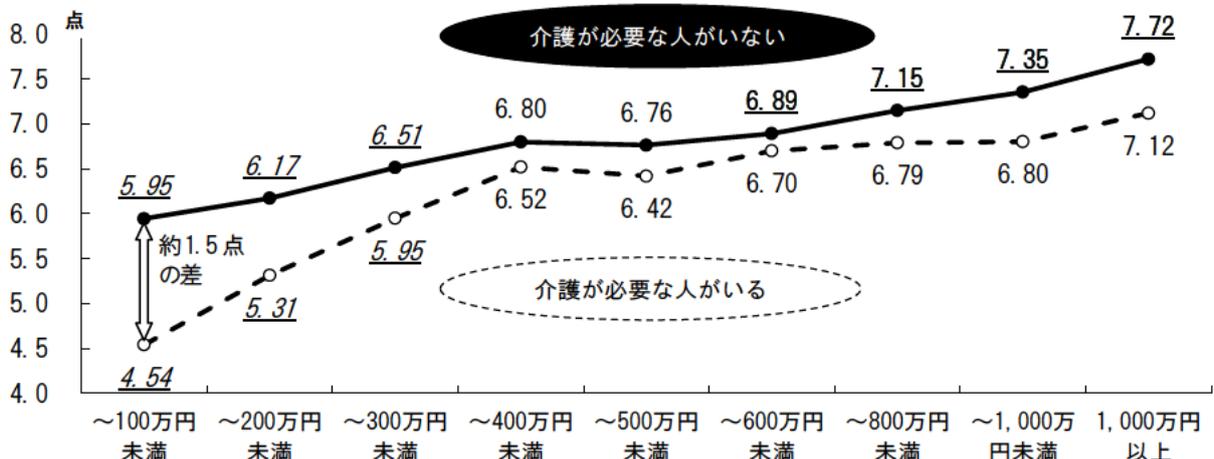
図表 1-3-10 幸福感（世帯収入別×子どもの有無別）



(3) 世帯収入別×介護が必要な人の有無別

世帯収入別×介護が必要な人の有無別に幸福感を見ると、介護が必要な人がいる層及び介護が必要な人がいない層ともに世帯収入が高くなるほど幸福感もおおむね高くなる傾向にあり、全ての世帯収入で介護が必要な人がいない層の幸福感が介護が必要な人がいる層よりも高くなっています。特に、100万円未満で介護が必要な人がいる層と介護が必要な人がいない層の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-11）。

図表 1-3-11 幸福感（世帯収入別×介護が必要な人の有無別）



第4節 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係

1 幸福感を判断する際に重視した事項の県全体の状況

幸福感を判断する際に重視した事項は、「健康状況」が67.7%と最も高く、次いで「家族関係」(66.9%)、「家計の状況(所得・消費)」(59.1%)となっています。第1回調査から第3回調査までは「家族関係」が最も高くなっていましたが、今回調査も前回調査に引き続き「健康状態」が最も高くなりました。他の項目についても、前回調査の順位から変動はありません。

第1回調査と比べ、「家族関係」、「就業状況」、「仕事の充実度」、「政治、行政」が低くなっています。前回調査との比較では、統計的に有意な差は認められません(図表1-4-1)。

なお、調査方法等が同一ではないので単純な比較はできませんが、国の直近の調査では上位3項目は県と同一ですが、「家計の状況」が「家族関係」よりも高い割合になっています(図表1-4-2)。

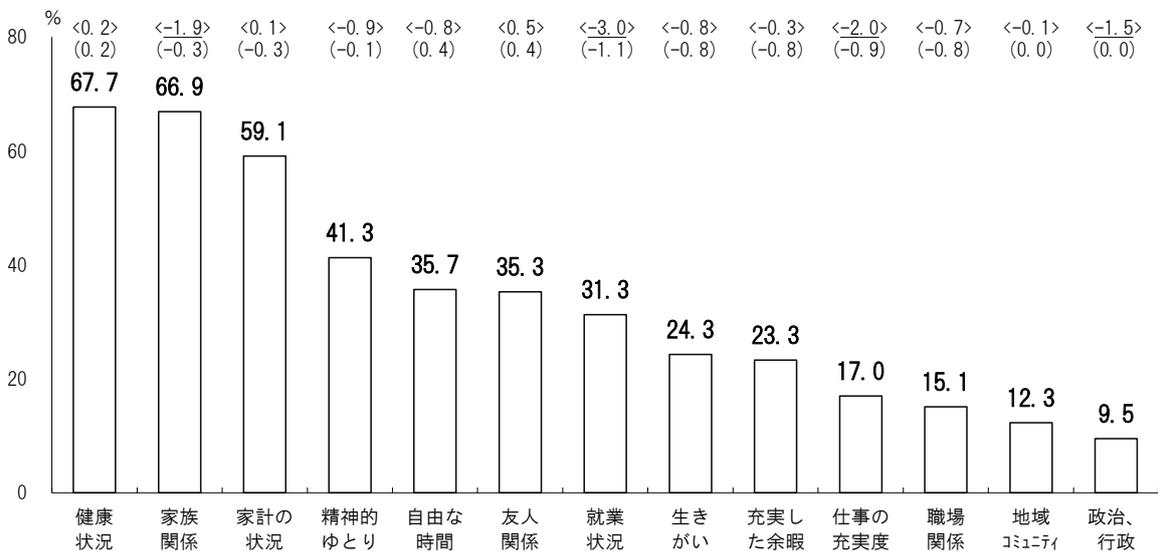
【凡例】

< >内の数字：第1回調査との差(ポイント)

()内の数字：前回調査との差(ポイント)

下線の数字：統計的に有意な差がある場合

図表1-4-1 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)



図表1-4-2 参考とした国の調査

- ◎ 平成26年健康意識調査(実施主体：厚生労働省)
- ◎ 質問「前問で幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。」(3つまで)
注)国の選択肢には「政治、行政」がありません。
- ◎ 調査結果(各年度上位3項目)
・健康状況(54.6%)、家計の状況(47.2%)、家族関係(46.8%)

2 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係

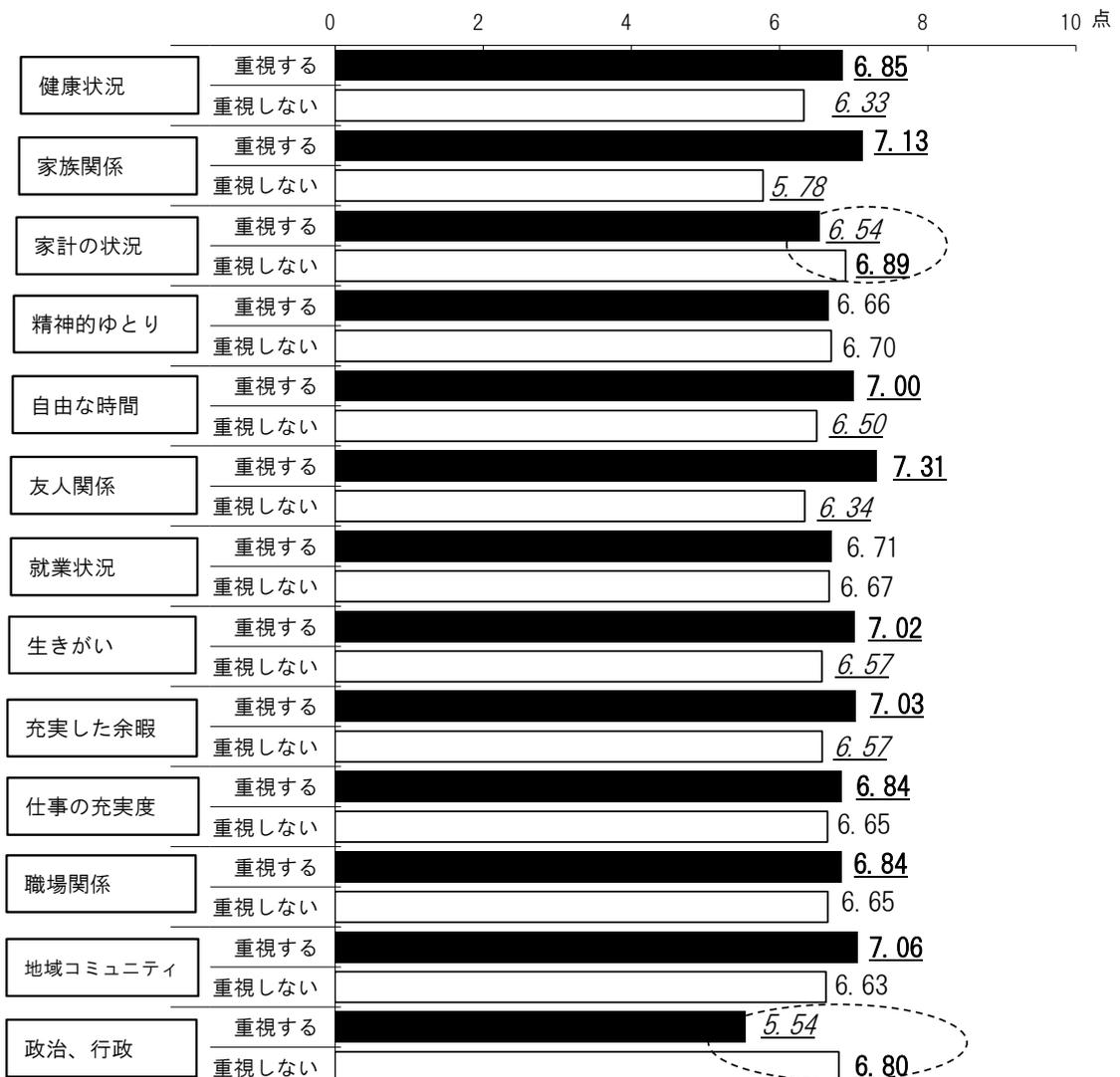
幸福感を判断する際に重視した事項について、その事項を選択した（重視する）人の幸福感の平均値と、選択しなかった（重視しない）人の幸福感を比較したところ、「家計の状況」及び「政治、行政」では、選択した（重視する）人の幸福感は選択しなかった（重視しない）人より低くなっています。

つまり、「家計の状況」及び「政治、行政」は、他の事項と比べ、幸福感を低下させる要因（不満を感じている要因）である可能性が高く、「家計の状況」及び「政治、行政」以外の項目^(※)は、「家計の状況」及び「政治、行政」に比べ、幸福感を上昇させる要因（満足している要因）である可能性が高いといえます（図表1-4-3）。

※ 「精神的なゆとり」及び「就業状況」は、幸福感に統計的に有意な差がないため、幸福感を上昇又は低下させる要因であるとはいえません。

【凡例】 **太字**の数字：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある項目
斜字の数字：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある項目
 ○：幸福感が「重視する」より「重視しない」の方が高く、かつ統計的に有意な差がある項目

図表1-4-3 幸福感を判断する際に重視した事項を選択した（重視する）人と選択しない（重視しない）人の幸福感の平均値



3 幸福感を判断する際に重視した事項の属性別の状況

幸福感を上昇させる要因である可能性が高い事項を属性別で分析したところ、上位5項目の特徴は次のとおりです。

「健康状況」では、回答者全体と比べ、50～60歳代、専業主婦・主夫、有配偶、800万円以上の割合が高くなっています。

「家族関係」では、回答者全体に比べ、女性、30～40歳代、正規職員、専業主婦・主夫、有配偶、一世代世帯、三世代世帯、400万円以上500万円未満、600万円以上の割合が高くなっています。

「自由な時間」では、回答者全体に比べ、20歳代、70歳以上、学生、専業主婦・主夫、無職、未婚、離別・死別、単独世帯、一世代世帯、200万円以上300万円未満の割合が高くなっています。

「友人関係」では、回答者全体に比べ、女性、20歳代、70歳以上、学生、専業主婦・主夫、未婚、1,000万円以上の割合が高くなっています。

「生きがい」では、回答者全体に比べ、男性、20歳代、60歳以上、農林水産業、学生、未婚、一世代世帯、800万円以上1,000万円未満の割合が高くなっています（図表1-4-4）。

図表1-4-4 幸福感を判断する際に重視した事項

(幸福感を上昇させる要因である可能性が高い事項)

	健康状況	家族関係	自由な時間	友人関係	生きがい	充実した余暇	仕事の充実度	職場関係	地域コミュニティ
全体	67.7	66.9	35.7	35.3	24.3	23.2	17.0	15.1	12.3
地域	北勢	67.2	66.4	37.0	34.6	23.5	24.2	16.3	14.6
	伊賀	68.3	63.3	35.5	33.9	25.9	22.9	15.5	14.7
	中南勢	69.2	69.1	33.2	36.4	25.4	23.0	18.0	16.2
	伊勢志摩	67.1	67.6	37.6	37.2	24.6	22.3	18.3	15.0
	東紀州	64.3	64.8	32.2	32.6	20.7	16.7	16.7	14.5
性別	男性	65.5	61.2	33.3	27.9	27.0	24.1	19.3	14.0
	女性	69.4	71.1	37.0	40.5	22.0	22.3	15.2	16.2
年齢	20歳代	54.9	62.5	44.8	53.8	28.3	34.5	23.4	26.9
	30歳代	59.5	72.1	31.9	37.0	20.4	20.8	21.2	22.1
	40歳代	65.2	71.5	28.3	30.0	19.2	22.3	23.7	22.2
	50歳代	72.4	67.7	27.2	29.9	21.7	20.7	23.3	21.7
	60歳代	72.9	66.8	37.8	32.4	26.8	22.0	11.3	9.7
主な職業	70歳以上	69.5	62.0	44.1	39.7	27.3	24.3	8.3	3.4
	農林水産業	73.6	66.7	30.2	31.0	34.1	22.5	23.3	7.0
	自営業・自由業	69.1	64.1	30.2	37.0	24.3	20.0	30.4	13.7
	正規職員	64.3	69.7	29.7	32.5	24.0	26.4	27.3	27.7
	パート・アルバイト・派遣	67.2	66.5	29.3	33.1	20.1	18.6	20.5	26.2
	その他の職業	64.3	62.7	28.7	32.0	24.2	22.1	23.8	17.2
	学生	61.7	66.7	56.7	75.0	36.7	36.7	10.0	20.0
	専業主婦・主夫	72.1	76.5	44.1	41.6	24.3	21.6	4.3	2.1
配偶関係	無職	69.1	59.4	44.6	34.0	25.9	25.2	3.7	2.0
	未婚	61.0	48.8	42.6	41.2	31.7	30.6	22.2	24.7
	有配偶	69.8	72.5	33.5	33.8	23.4	21.8	16.6	14.1
世帯類型	離別・死別	64.5	56.5	39.5	37.2	21.7	23.2	13.1	10.9
	単独世帯	64.3	39.2	43.7	37.6	26.0	27.7	14.4	13.2
	一世代世帯	69.4	69.6	38.2	35.1	26.8	23.3	14.5	11.4
	二世代世帯	67.5	68.6	33.1	34.4	22.1	21.7	18.5	17.4
世帯収入	三世代世帯	68.0	72.7	31.7	38.3	24.7	25.3	17.9	17.6
	100万円未満	60.6	46.3	40.2	31.3	22.0	20.3	9.3	6.1
	～200万円未満	64.9	55.4	39.1	34.7	20.3	19.2	12.1	9.6
	～300万円未満	67.7	62.5	39.9	32.8	26.5	22.2	15.1	11.7
	～400万円未満	68.3	65.5	36.3	33.8	24.3	22.3	13.4	11.1
	～500万円未満	68.6	72.2	34.1	32.6	25.6	23.5	15.4	15.3
	～600万円未満	66.8	68.4	30.1	34.8	24.0	21.8	19.2	18.0
	～800万円未満	68.3	73.9	31.9	38.1	22.2	26.7	22.9	22.2
	～1,000万円未満	74.9	75.1	31.1	34.6	29.1	26.9	24.9	22.0
1,000万円以上	74.1	81.4	30.1	40.3	25.4	26.8	26.5	22.3	

【凡例】

- 黒色：割合が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
- 灰色：割合が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
- 白色：割合が回答者全体と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

幸福感を低下させる要因である可能性が高い事項を属性別で分析したところ、特徴は次のとおりです。

「家計の状況」では、回答者全体と比べ、30～50歳代、自営業・自由業、正規職員、有配偶、二世帯世帯、500万円以上の割合が高くなっています。一方、20歳代、70歳以上、学生、無職、未婚、離別・死別、単独世帯、300万円未満の割合が低くなっています。

「政治、行政」では、回答者全体に比べ、男性、無職、100万円未満の割合が高くなっています。一方、女性、20～30歳代、学生、専業主婦・主夫、1,000万円以上の割合が低くなっています（図表1-4-5）。

【凡例】

- 黒色：割合が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
- 灰色：割合が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
- 白色：割合が回答者全体と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

図表 1-4-5 幸福感を判断する際に重視した事項
(幸福感を低下させる要因である可能性が高い事項)

		家計の状況	政治、行政
全体		59.1	9.5
地域	北勢	59.0	9.4
	伊賀	60.4	11.4
	中南勢	59.7	9.6
	伊勢志摩	57.9	8.8
	東紀州	55.9	7.5
性別	男性	60.2	11.3
	女性	58.4	8.1
年齢	20歳代	52.4	4.3
	30歳代	62.5	7.4
	40歳代	64.7	10.0
	50歳代	66.9	11.1
	60歳代	59.8	10.0
	70歳以上	48.8	9.7
主な職業	農林水産業	59.7	13.2
	自営業・自由業	63.7	10.4
	正規職員	63.0	8.4
	パート・アルバイト・派遣	61.8	9.6
	その他の職業	61.1	9.8
	学生	41.7	1.7
	専業主婦・主夫	58.2	7.5
	無職	52.0	11.4
配偶関係	未婚	55.5	8.6
	有配偶	61.7	9.6
	離別・死別	50.6	9.9
世帯類型	単独世帯	50.6	9.7
	一世帯世帯	56.9	8.4
	二世帯世帯	62.8	10.1
	三世帯世帯	57.7	8.7
世帯収入	100万円未満	46.7	13.8
	～200万円未満	47.7	9.0
	～300万円未満	54.6	10.8
	～400万円未満	59.7	10.4
	～500万円未満	61.4	9.6
	～600万円未満	63.3	9.4
	～800万円未満	68.3	9.0
	～1,000万円未満	70.3	11.4
	1,000万円以上	71.8	4.5

4 幸福感を判断する際に重視した事項の第1回調査との差

第1回調査と比べ、県全体の割合が低い「家族関係」、「就業状況」、「仕事の充実度」、「政治、行政」の4事項について、属性別の状況をみると、「家族関係」では、第1回調査に比べ、北勢、伊賀、東紀州、男性、70歳以上、三世帯世帯で低くなっています。

「就業状況」では、北勢、中南勢、東紀州、男性、40歳以上、正規職員、パート・バイト・派遣、有配偶、単身世帯、一世帯世帯で低くなっています。

「仕事の充実度」では、伊賀、中南勢、男性、女性、60歳以上、未婚、有配偶、二世帯世帯、三世帯世帯で低くなっています。

「政治、行政」では、中南勢、男性、20～30歳代、学生、未婚、一世帯世帯で低くなっています(図表1-4-6)。

【凡例】

■ 灰色：割合が第1回調査より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

□ 白色：割合が第1回調査に比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

図表 1-4-6 幸福感を判断する際に重視した事項(第1回調査との差)

		家族関係	就業状況	仕事の充実度	政治、行政
幸福感との関係性 ※図1-4-3から導き出した「可能性が高い」程度の関係性		幸福感を上昇させる要因	どちらともいえない	幸福感を上昇させる要因	幸福感を低下させる要因
全体		-1.9	-3.0	-2.0	-1.5
地域	北勢	-2.3	-3.6	-1.7	-1.0
	伊賀	-7.9	0.4	-4.1	-0.6
	中南勢	-0.3	-4.8	-2.9	-2.2
	伊勢志摩	2.0	2.7	-0.2	-1.6
	東紀州	-7.3	-9.8	0.0	-4.1
性別	男性	-4.4	-4.0	-2.3	-2.1
	女性	-0.7	-1.9	-1.6	-0.4
年齢	20歳代	2.0	-1.0	-4.9	-5.0
	30歳代	-2.1	-0.9	-3.1	-2.7
	40歳代	-1.1	-7.8	-1.6	-1.5
	50歳代	-3.4	-3.7	0.2	-0.3
	60歳代	0.1	-1.7	-2.9	-1.5
	70歳以上	-4.0	-1.9	-2.2	-0.3
主な職業	農林水産業	-0.6	0.1	-6.5	4.9
	自営業・自由業	-4.3	-3.8	-0.2	-2.1
	正規職員	-0.3	-3.6	-1.4	-1.8
	パート・バイト・派遣	-0.3	-5.6	-2.5	-1.2
	その他の職業	-2.0	1.0	-0.9	3.1
	学生	1.8	0.3	-3.0	-6.1
	専業主婦・主夫	-2.3	-0.2	0.0	-0.7
	無職	-4.7	-1.1	-2.0	-2.0
配偶関係	未婚	-0.5	-1.7	-5.9	-4.8
	有配偶	-1.3	-3.7	-1.6	-1.0
	離別・死別	-2.1	-2.5	-1.3	-0.1
世帯類型	単身世帯	-4.6	-6.0	-2.8	-1.4
	一世帯世帯	-1.2	-4.6	-1.3	-2.1
	二世帯世帯	-0.6	-1.9	-2.2	-1.1
	三世帯世帯	-4.5	-1.9	-3.8	-1.1

第5節 幸福感を高める手立てと幸福感との関係

1 幸福感を高める手立ての県全体の状況

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が67.0%と最も高く、次いで「自分自身の努力」(55.4%)、「友人や仲間との助け合い」(23.1%)の順となっています。

前回調査との比較では、「自分自身の努力」が低くなった一方で、「社会（地域住民、NPO等）の助け合い」が高くなっています。

第2回調査との比較では、「家族との助け合い」、「自分自身の努力」が低くなった一方で、「友人や仲間との助け合い」、「社会（地域住民、NPO等）との助け合い」、「職場からの支援」が高くなっています（図表1-5-1）。

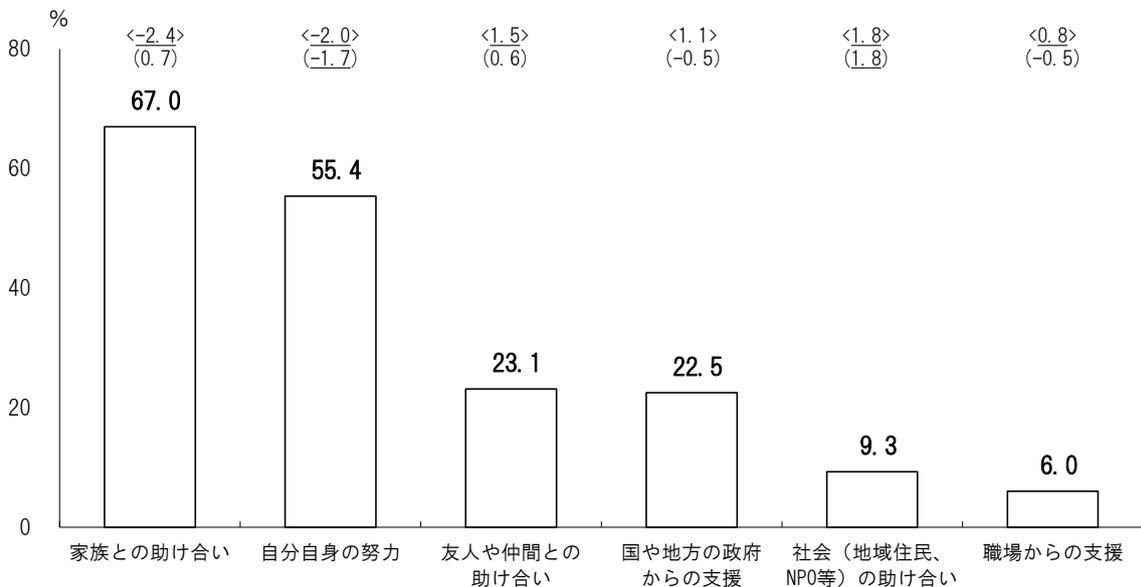
【凡例】

< >内の数字：第2回調査との差（ポイント）

()内の数字：前回調査との差（ポイント）

下線の数字：統計的に有意な差がある場合

図表1-5-1 幸福感を高める手立て〔2つまでの複数回答〕



（備考）幸福感を高める手立ては、第2回調査からの設問であるため、第1回調査ではなく第2回調査との比較を行っています。

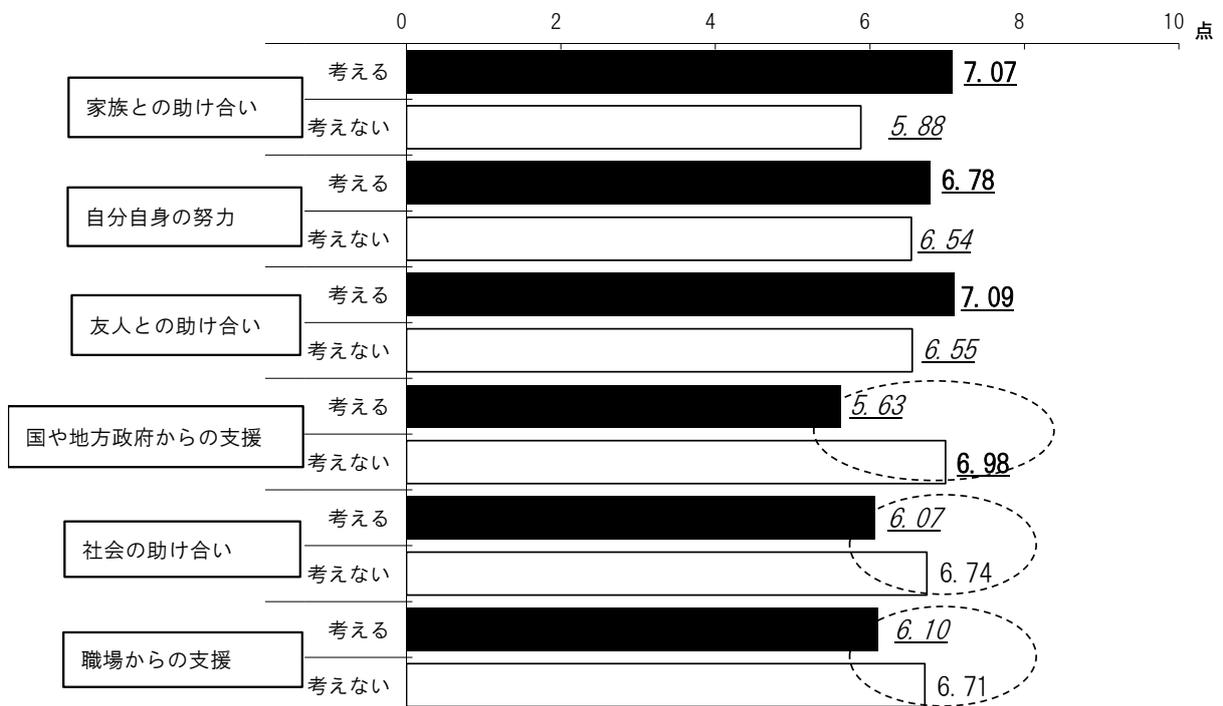
2 幸福感を高める手立てと幸福感との関係

幸福感を高める手立てについて、その事項を選択した（有効な手立てと考える）人の幸福感の平均値と、選択しなかった（考えない）人の幸福感を比較したところ、「国や地方政府からの支援」、「社会の助け合い」及び「職場からの支援」では、選択した（考える）人の幸福感が選択しなかった（考えない）人より低くなっています。

つまり、「国や地方政府からの支援」、「社会の助け合い」及び「職場からの支援」は、他の手立てと比べ、幸福感を高める手立てとして期待している可能性が高く、「家族との助け合い」、「自分自身の努力」及び「友人や仲間との助け合い」は、他の手立てに比べ、幸福感を高めた成果である可能性が高いといえます（図表1-5-2）。

【凡例】 **太字**の数字：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある項目
斜字の数字：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある項目
 ○：幸福感が「考える」より「考えない」の方が高く、かつ統計的に有意な差がある項目

図表 1-5-2 幸福感を高める手立てを選択した（有効な手立てと考える）人と選択しない（考えない）人の幸福感の平均値



3 幸福感を高める手立ての属性別の状況

「家族との助け合い」では、回答者全体と比べ、女性、60歳以上、専業主婦・主夫、有配偶、一世代世帯、三世帯世帯、600万円以上の割合が高くなっています。

「自分自身の努力」では、回答者全体に比べ、男性、60歳代、自営業・自由業、学生、未婚、単独世帯の割合が高くなっています。

「友人や仲間との助け合い」では、回答者全体に比べ、女性、20歳代、70歳以上、学生、未婚、離別・死別、単独世帯、100万円以上200万円未満の割合が高くなっています。

「国や地方の政府からの支援」では、回答者全体に比べ、伊賀、50歳代、パート・バイト・派遣、離別・死別、100万円未満、300万円以上400万円未満の割合が高くなっています。

「社会（地域住民、NPO等）の助け合い」では、回答者全体に比べ、男性、60歳以上、農林水産業、無職、単独世帯、200万円以上300万円未満の割合が高くなっています。

「職場からの支援」では、回答者全体に比べ、20～40歳代、正規職員、パート・バイト・派遣、その他の職業、未婚、二世帯世帯の割合が高くなっています（図表1-5-3）。

図表1-5-3 幸福感を高める手立て（属性別）

		い家族との助け合い	自分自身の努力	助友人や仲間との助け合い	か国や地方の政府からの支援	の民、社会（NPO等）の助け合い（地域住民等）	職場からの支援
幸福感との関係性 ※図1-5-2から導き出した「可能性が高い」程度の関係性		幸福感を高めた成果			幸福感を高める手立てとして期待		
全体		67.0	55.4	23.1	22.5	9.3	6.0
地域	北勢	67.0	56.6	22.0	21.3	8.4	6.4
	伊賀	65.4	52.2	23.6	26.5	11.7	5.9
	中南勢	67.0	55.2	25.0	23.6	10.0	5.0
	伊勢志摩	68.0	55.1	22.8	20.9	10.1	6.9
	東紀州	67.3	51.4	23.4	23.8	6.5	6.5
性別	男性	62.2	57.8	19.9	23.7	10.7	6.9
	女性	70.6	53.7	25.5	21.4	8.1	5.5
年齢	20歳代	55.4	49.6	38.2	20.7	4.4	12.8
	30歳代	65.8	49.2	23.2	24.1	6.7	12.1
	40歳代	65.9	54.9	20.9	24.1	6.4	11.0
	50歳代	66.6	56.4	18.3	27.4	8.1	5.9
	60歳代	69.6	58.6	20.7	20.9	12.1	2.8
	70歳以上	70.0	57.0	26.6	18.0	11.7	0.8
主な職業	農林水産業	62.2	59.8	16.5	26.8	18.1	3.1
	自営業・自由業	69.2	62.9	20.3	19.2	8.4	2.8
	正規職員	65.9	55.1	23.4	20.8	5.9	12.3
	パート・バイト・派遣	64.0	52.6	23.4	26.5	8.9	8.8
	その他の職業	58.0	52.8	22.1	24.7	10.4	10.0
	学生	51.8	69.6	53.6	10.7	1.8	3.6
	専業主婦・主夫	77.0	52.0	25.1	20.2	8.9	1.8
	無職	66.0	57.3	22.1	23.0	12.8	0.9
配偶関係	未婚	43.6	60.2	33.2	22.6	9.2	11.5
	有配偶	73.3	54.5	19.8	21.8	9.3	5.2
	離別・死別	55.1	56.1	32.1	26.5	10.0	5.0
	単独世帯	37.7	63.3	36.4	23.6	12.3	6.3
世帯類型	一世代世帯	71.6	56.0	20.9	20.5	9.7	4.1
	二世帯世帯	68.3	53.7	22.5	23.3	8.5	7.2
	三世帯世帯	72.1	56.5	22.5	20.7	8.1	7.3
	100万円未満	53.1	46.5	25.9	38.6	12.7	1.8
世帯収入	～200万円未満	62.6	51.2	27.6	25.2	10.2	3.9
	～300万円未満	62.4	53.5	24.6	24.0	12.2	6.8
	～400万円未満	67.5	57.4	21.4	25.4	8.7	5.8
	～500万円未満	69.0	57.8	18.2	22.6	9.4	7.0
	～600万円未満	68.8	53.7	20.8	18.9	10.9	7.8
	～800万円未満	70.2	58.8	21.0	21.3	6.7	7.6
	～1,000万円未満	73.3	57.4	21.3	16.4	7.3	6.1
	1,000万円以上	78.9	59.3	22.6	15.4	5.7	3.9

【凡例】

- 黒色：割合が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
- 灰色：割合が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
- 白色：割合が回答者全体と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

4 幸福感を高める手立ての第2回調査との差

第2回調査と比べ、県全体の割合が低い「家族との助け合い」、「自分自身の努力」、県全体の割合が高い「友人や仲間との助け合い」、「社会（地域住民、NPO等）の助け合い」、「職場からの支援」の5事項について、属性別の状況をみると、「家族との助け合い」では、北勢、伊賀、男性、女性、50歳代、パート・バイト・派遣、有配偶、単独世帯、200万円未満で低くなっています。

「自分自身の努力」では、伊賀、中南勢、20～30歳代、パート・バイト・派遣、二世帯世帯、300万円未満、600万円以上800万円未満、1,000万円以上で低くなっています。

「友人や仲間との助け合い」では、正規職員、パート・バイト・派遣、有配偶、離別・死別、単独世帯、100万円以上200万円未満、500万円以上800万円未満で高くなっています。

「社会（地域住民、NPO等）の助け合い」では、伊賀、伊勢志摩、男性、女性、60歳代、農林水産業、パート・バイト・派遣、その他の職業、未婚、有配偶、二世帯世帯、100万円未満、200万円以上300万円未満、400万円600万円未満、1,000万円以上で高くなっています。

「職場からの支援」では、女性、30歳代、パート・バイト・派遣、離別・死別、三世帯世帯で高くなっています（図表1-5-4）。

図表 1-5-4 幸福感を高める手立て（第2回調査との差）

		い家族との助け合い	自分自身の努力	助友け人けい仲間との	の民社、会、助け合N（地、け合P、いO等住）	職場からの支援
幸福感との関係性 ※図1-5-2から導き出した「可能性が高い」程度 の関係性		幸福感を高めた成果			幸福感を高める手立てとして期待	
全体		-2.4	-2.0	1.5	1.8	0.8
地域	北勢	-3.8	-0.3	0.3	1.3	0.8
	伊賀	-5.4	-6.2	4.1	4.1	1.1
	中南勢	-0.2	-3.9	2.5	1.3	0.8
	伊勢志摩	-1.2	-1.5	2.2	3.5	0.7
	東紀州	2.3	-1.1	1.4	-0.5	0.5
性別	男性	-3.2	-1.7	1.8	1.9	0.7
	女性	-2.2	-2.2	1.0	1.8	1.1
年齢	20歳代	5.7	-10.3	-5.0	0.6	1.8
	30歳代	-2.4	-5.4	0.2	1.6	3.1
	40歳代	-1.9	-2.1	3.1	1.5	0.3
	50歳代	-5.5	2.6	1.2	0.3	-0.1
	60歳代	-2.3	-1.4	1.7	3.7	0.8
主な職業	70歳以上	-1.4	-2.7	2.5	1.1	0.3
	農林水産業	-8.6	-5.7	-0.8	7.4	1.9
	自営業・自由業	-0.5	0.2	-1.7	2.1	0.6
	正規職員	-1.3	-0.4	3.3	0.8	0.1
	パート・バイト・派遣	-4.1	-5.5	4.1	2.1	2.7
	その他の職業	-5.8	-6.8	-7.2	6.7	3.1
	学生	9.9	-1.4	-2.9	-3.0	0.4
	専業主婦・主夫	-3.2	-1.5	1.9	1.9	0.4
配偶関係	無職	-2.5	0.3	1.6	0.7	-0.1
	未婚	1.8	-3.8	-4.9	2.9	0.9
	有配偶	-1.7	-1.4	1.6	1.6	0.2
世帯類型	離別・死別	-2.2	-4.6	6.4	2.6	2.0
	単独世帯	-5.9	-4.3	7.2	3.4	0.6
	一世帯世帯	-2.7	-1.9	1.2	1.6	0.9
	二世帯世帯	-1.1	-2.9	2.0	1.4	0.8
世帯収入	三世帯世帯	-2.4	0.1	0.7	0.9	2.6
	100万円未満	-19.2	-7.9	3.3	4.8	-1.0
	～200万円未満	-4.8	-6.0	6.0	1.4	0.2
	～300万円未満	-4.0	-4.8	1.5	3.6	0.2
	～400万円未満	4.4	-3.1	-1.6	2.3	-2.6
	～500万円未満	-0.1	-3.4	-2.6	4.3	-2.8
	～600万円未満	1.9	-1.5	5.1	5.3	-3.5
	～800万円未満	-2.8	-7.3	6.3	0.5	2.1
～1,000万円未満	-5.3	2.7	4.2	-2.1	0.1	
1,000万円以上	11.4	-12.1	-3.4	4.4	0.0	

【凡例】
 ■ 黒色：割合が第2回調査より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 ■ 灰色：割合が第2回調査より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

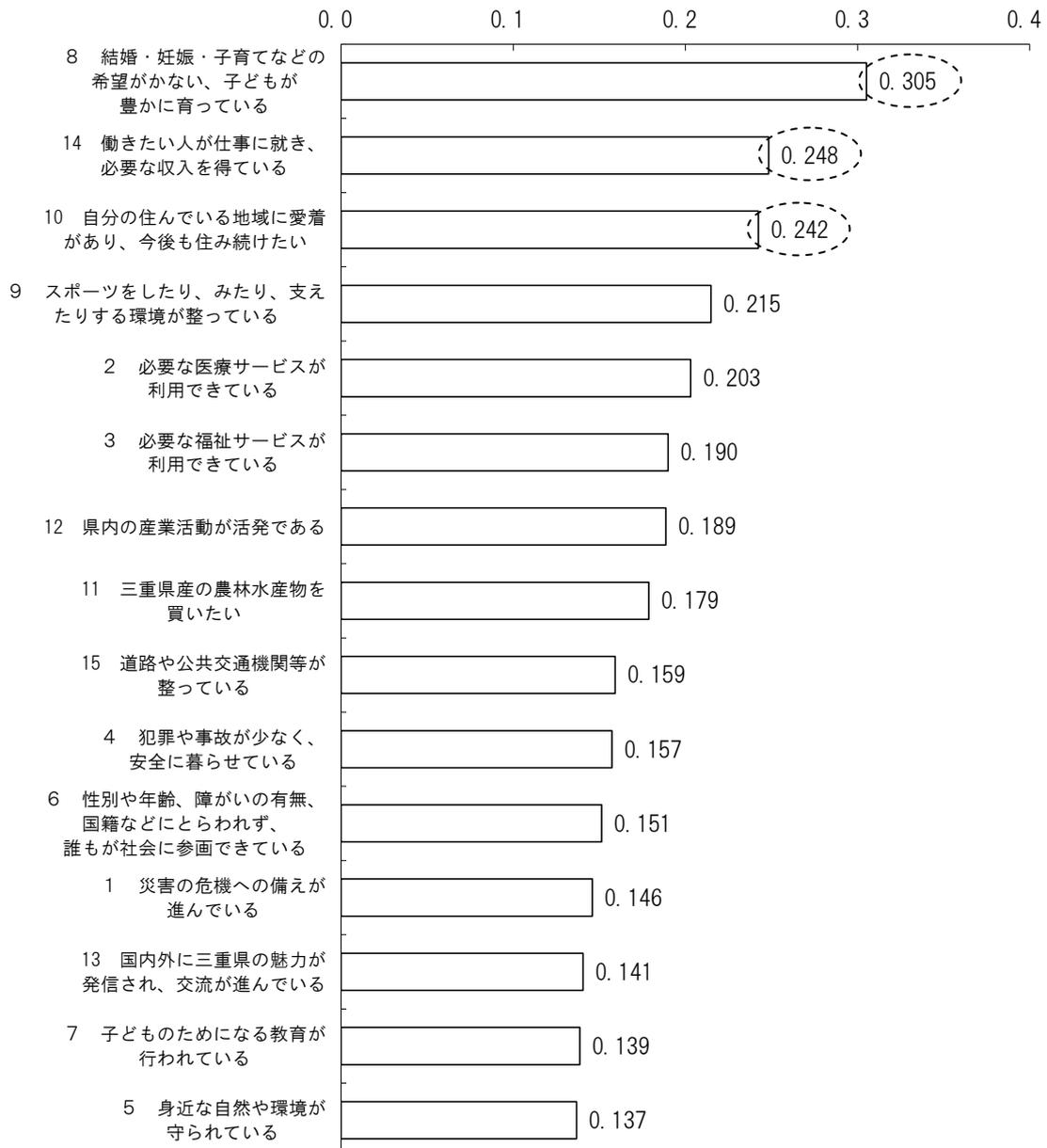
第6節 幸福感と幸福実感指標との相関関係

○ 幸福感と15の幸福実感指標との相関関係

幸福感と15の幸福実感指標との相関係数を算出したところ、相関係数がおおよそ0.1～0.3の範囲であることから、正の相関関係があり、幸福実感指標に係る実感が高い人ほど幸福感が高いという関係にあります。

特に、上位3指標は「8 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている」、「14 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」、「10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」となっており、これらの幸福実感指標に係る実感は、幸福感との相関関係が比較的強いといえます（図表1-6-1）。

図表1-6-1 幸福感と15の幸福実感指標との相関係数



■幸福感の現状からの政策の示唆

これまでのみえ県民意識調査でも明らかにしてきましたが、今回調査においても、未婚より既婚、子どもがいない層より子どもがいる層、介護が必要な人がいる層より介護が必要な人がいない層の幸福感が高い傾向があること、世帯収入が高くなるほど幸福感もおおむね高くなる傾向があることが確認できました。引き続き、少子化対策、介護支援、雇用対策、産業振興等に取り組んでいくことが重要であると考えます。

また、パート・バイト・派遣より正規職員の幸福感が高くなっていますが、世帯収入が同程度である場合、パート・バイト・派遣と正規職員の幸福感に大きな差はありません。個人の希望や家族内での役割分担に応じて、多様な働き方を推進することが重要であると考えます。

また、幸福感を判断する際に重視した事項や幸福感を高める手立てにおいて、家族や自分自身の努力を依然として重視していることには変わりはありませんが、第1回又は第2回調査と比較すると、家族以外の社会のシステムやつながりの豊かさを重視する傾向が強くなってきたことがみてとれます。政策の展開にあたっては「精神的な豊かさ」と「経済的な豊かさ」に「社会のシステムやつながりの豊かさ」を加えた「新しい豊かさ」の視点が重要であるといえます。

さらに、幸福感は、15の幸福実感指標のうち、少子化、雇用、地域に関する幸福実感指標と比較的強い相関がみてとれました。自然減対策と、働く場の創出や地域の魅力を高める社会減対策をバランスよく推進することが県民の幸福感を押し上げるために重要であると考えます。

コラム

地域別を中心とした2以上の属性クロス分析からみえる 県内5地域の幸福感的特徴

今回調査による幸福感を地域別にみると、次のようになります。

調査結果に関する統計的有意性の確認は行っていないことから、あくまでも、今回調査にご回答いただいた5,236人の幸福感からみえる地域の特徴を示したものであり、地域全体の幸福感的特徴を示したものではありません。

伊賀地域

- 男性の幸福感が5地域の中で最も低い。
- 70歳以上の幸福感が5地域の中で最も高い。
- 20～30歳代の幸福感が5地域の中で最も低い。
- 0～5歳の末子がいる層、子どもがいない層の幸福感が5地域の中で最も低い。
- 単独世帯の幸福感が5地域の中で2番目に高い。
- 一世代世帯の幸福感が5地域の中で最も低い。

北勢地域

- 男女ともに幸福感が5地域の中で最も高い。
- 20歳代の幸福感が東紀州地域を除く4地域の中で2番目に低い。
- 40歳代及び60歳代の幸福感が5地域の中で最も高い。
- 6歳以上の末子がいる層の幸福感が5地域の中で最も高い。
- 単独世帯の幸福感が5地域の中で2番目に低い。
- 一世代世帯及び二世帯世帯の幸福感が5地域の中で最も高い。

中南勢地域

- 20歳代の幸福感が5地域の中で最も高い。
- 0～5歳の末子がいる層の幸福感が5地域の中で最も高い。
- 単独世帯の幸福感が5地域の中で最も低い。

東紀州地域

- 女性の幸福感が5地域の中で最も低い。
- 50歳以上の幸福感が5地域の中で最も低い。
- 6歳以上の末子がいる層の幸福感が5地域の中で最も低い。
- 子どもがいない層の幸福感が5地域の中で最も高い。
- 単独世帯の幸福感が5地域の中で最も高い。
- 二世帯世帯及び三世帯世帯の幸福感が5地域の中で最も低い。

伊勢志摩地域

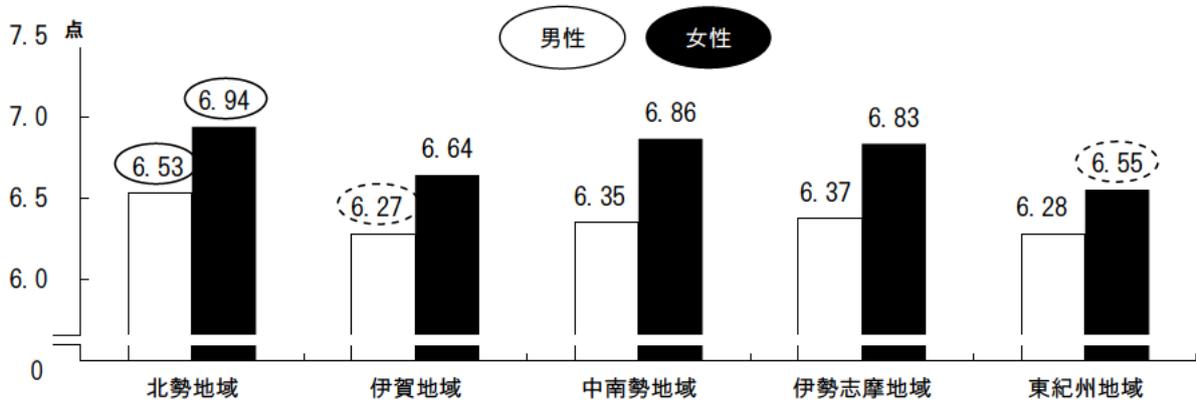
- 30歳代及び50歳代の幸福感が5地域の中で最も高い。
- 40歳代の幸福感が5地域の中で最も低い。
- 三世帯世帯の幸福感が5地域の中で最も高い。

(1) 地域別×性別

地域別×性別に幸福感を見ると、男女ともに北勢地域の幸福感が最も高くなっています。男性の幸福感は伊賀地域で、女性の幸福感は東紀州地域で最も低くなっています（図表1-7-1）。

【凡例】 ○：性別で最も幸福感が高い地域
 ○：性別で最も幸福感が低い地域

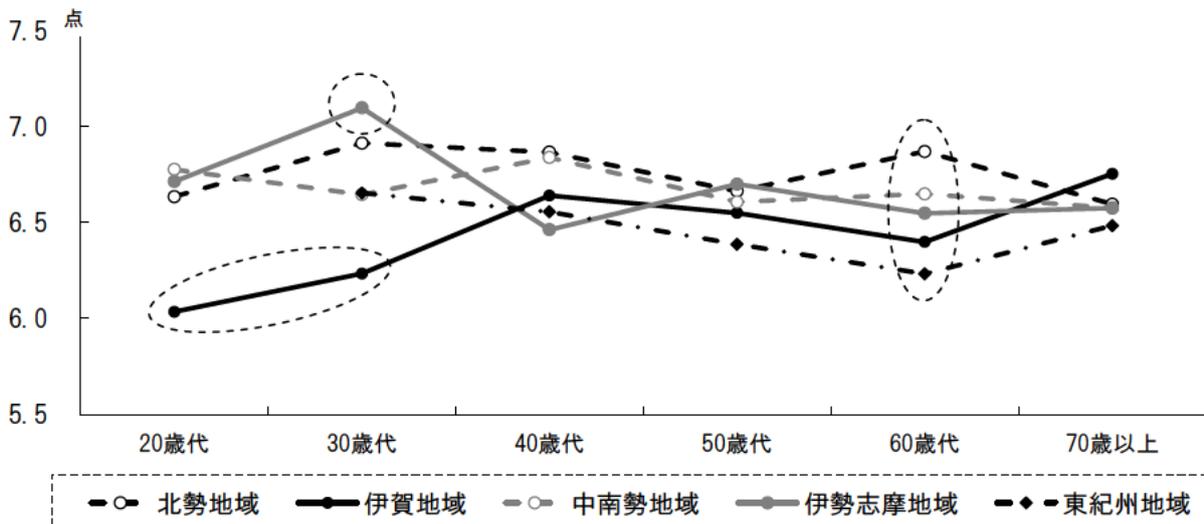
図表 1-7-1 幸福感（地域別×性別）



(2) 年齢別×地域別

年齢別×地域別に幸福感を見ると、伊勢志摩地域の30歳代の幸福感が最も高く、伊賀地域の20～30歳代の幸福感が最も低くなっています。また、60歳代は、30歳代に次いで幸福感の地域差が大きくなっており、北勢地域の幸福感が最も高く、東紀州地域の幸福感が最も低くなっています（図表1-7-2）。

図表 1-7-2 幸福感（年齢別×地域別）



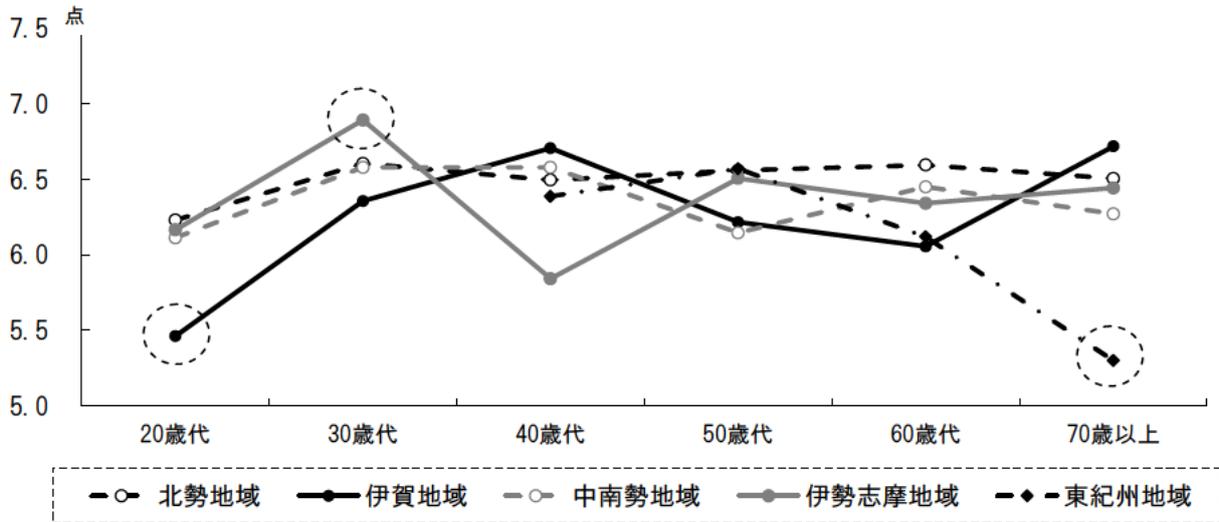
（備考）サンプル数が10未満の属性項目は、掲載を省略しています。

(3) 年齢別×地域別×性別

年齢別×地域別×性別に幸福感を見ると、男性は、伊勢志摩地域の30歳代の幸福感が最も高く、東紀州地域の70歳以上の幸福感が最も低く、次いで伊賀地域の20歳代の幸福感が低くなっています(図表1-7-3)。

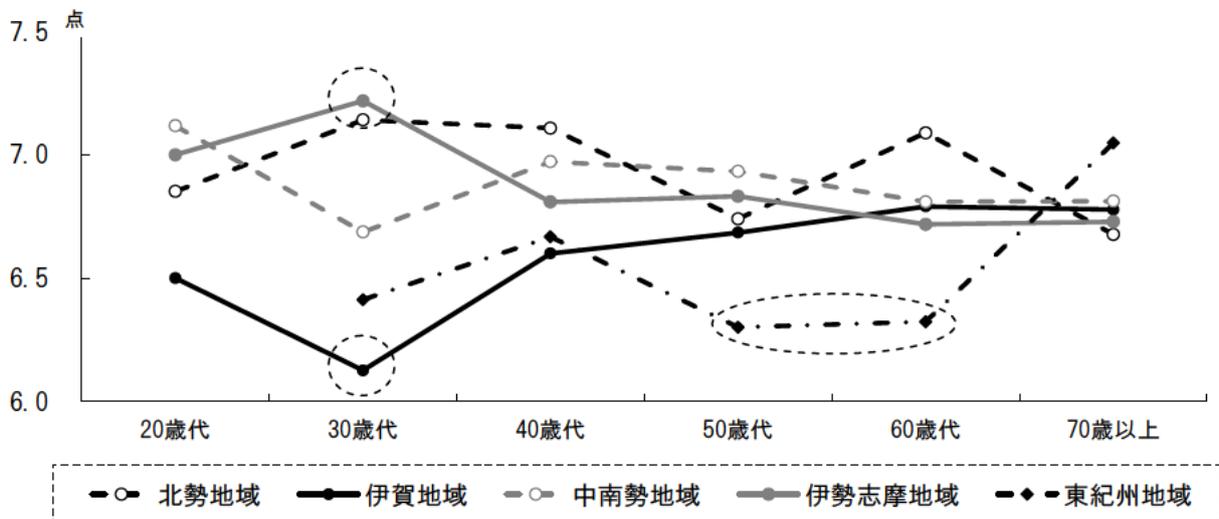
女性は、伊勢志摩地域の30歳代の幸福感が最も高く、伊賀地域の30歳代の幸福感が最も低く、次いで東紀州地域の50～60歳代の幸福感が低くなっています(図表1-7-4)。

図表 1-7-3 幸福感 (年齢別×地域別×男性)



(備考) サンプル数が10未満の属性項目は、掲載を省略しています。

図表 1-7-4 幸福感 (年齢別×地域別×女性)



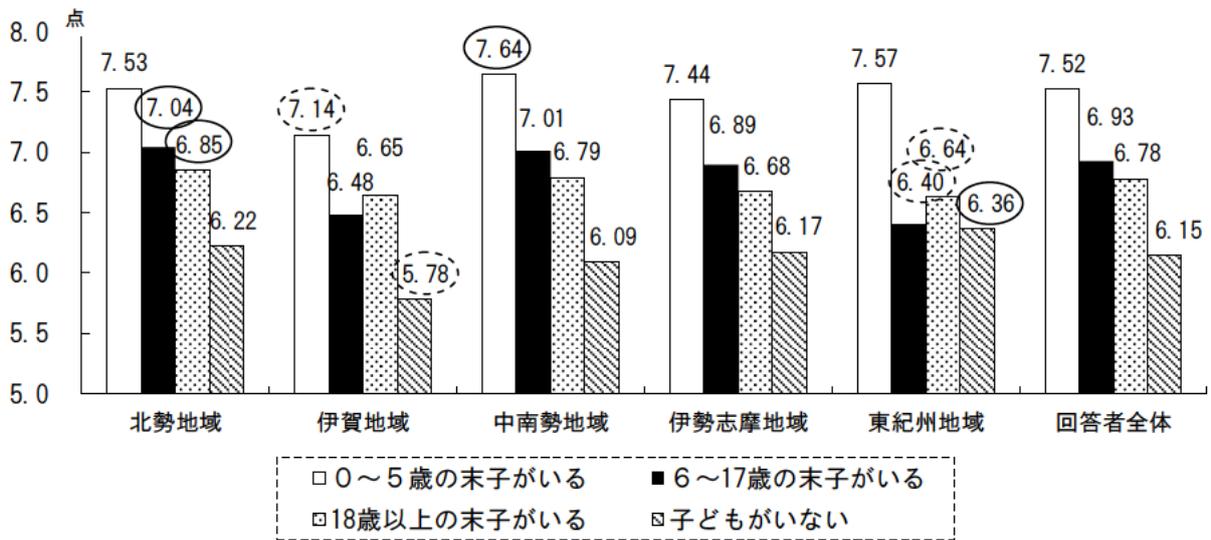
(備考) サンプル数が10未満の属性項目は、掲載を省略しています。

(3) 地域別×子どもの有無・末子の年齢別

地域別×子どもの有無・末子の年齢別に幸福感を見ると、0～5歳の末子がいる層の幸福感は中南勢地域で、6歳以上の末子がいる層の幸福感は北勢地域で、子どもがいない層の幸福感は東紀州地域で高くなっています（図表1-7-5）。

- 【凡例】 ○ : 子どもの有無・子どもの年代別で最も幸福感が高い地域
 ○ : 子どもの有無・子どもの年代別で最も幸福感が低い地域

図表 1-7-5 幸福感（地域別×子どもの有無・末子の年齢別）



(4) 世帯類型別×地域別

世帯類型別×地域別に幸福感を見ると、一世代世帯では、東紀州地域の幸福感が最も高くなっていますが、二世帯世帯及び三世帯世帯では、東紀州地域の幸福感が最も低くなっています（図表1-7-6）。

図表 1-7-6 幸福感（世帯類型別×地域別）

